

		2学年 国語科 1学期 指導計画・評価計画					
実施月	単元	項目・内容・時数	単元目標	評価規準			
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
4	広がる学びへ	見えないだけ	4	抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	詩の中に出てくる好きな言葉や表現を、理由と共にまとめている。	「読むこと」において詩の構成や表現の効果について考えている。	進んで語感を磨き、今までの学習を生かして朗読しようとしている。
5		アイスプラネット	7	文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉えることができる。	登場人物の心情や考えが表れた語句に注意して、作品を読んでいる。	「読むこと」において「ぐうちゃん」の言動から特徴を捉え、他の登場人物との関係をまとめている。	積極的に登場人物の設定の仕方などを捉え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
		枕草子	6	現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方をすることができる。 目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にすることができる。	現代語訳や語注を手掛かりに「枕草子」を読み、作者のものの見方や考え方を捉えている。	「読むこと」において、作者の考えを自分の考えとを比較し、感じたことをまとめている。 「書くこと」において、生活を振り返って、自分ならではの季節感を表すものを見つけている。	進んで文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分ならではの季節感を表す文章を書こうとしている。
	漢字1 熟語の構成	1	熟語の構成を意識しながら漢字を読んだり書いたりすることができる。	熟語の構成を意識しながら漢字を読んだり書いたりしている。		熟語の構成を意識しながら漢字を読んだり書いたりしようとしている。	
6	多様な視点から	クマゼミ増加の原因を探る	5	文章全体と部分との関係に注意しながら、首長と例示との関係を捉えることができる。 文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができる。	文章の構成や展開について理解を深めている。	「読むこと」において、筆者の主張を捉え、それと仮説との関係を理解している。 「読むこと」において、文章中の図表やグラフが何のために示されているのかを、対応する文章を基に考えている。	積極的に文章と図表などを結び付け、考えたことを話し合おうとしている。
		短歌に親しむ 短歌を味わう	5	観点を明確にして短歌を比較するなどし、短歌の構成や表現の効果について考えることができる。 表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる短歌になるように工夫することができる。	情景などを表す語句に着目して作品を読み深めている。また、情景や心情が生かされて伝わる言葉を選んで短歌を創作している。	「読むこと」において、複数の短歌を比較し、言葉の選び方や順序にどのような特徴や効果があるかを考えている。 「書くこと」において自分の思いが伝わるように、学習した短歌の形式や表現の工夫を参考にした短歌を作っている。	進んで短歌の構成や表現の効果について考え、短歌を創作しようとしている。
	言葉と向き合う	言葉の力	5	文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。		「読むこと」において言葉に対する筆者の考え方について自分の考えをもち、話し合っている。	進んで文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めようとしている。
		類義語・対義語・多義語	3	類義語・対義語・多義語の概念について具体的な例を当てはめて理解することができる。	類義語・対義語・多義語の概念について具体的な例を当てはめて理解している。		積極的に類義語と多義語、多義的な意味を表す語句などについて理解しようとしている。
7	言葉比べよう	言葉比べよう	2	抽象的な概念を表す言葉について理解し、類義語の微妙な違いを考えることを通して語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	抽象的な概念を表す言葉について理解し、類義語の微妙な違いを考えることを通して語感を磨いている。		積極的に抽象的な概念を表す語句の量を増し、語感を磨こうとしている。
		魅力的な提案をしよう	7	資料や機器を用いるなどして、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。 説明や提案など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問や助言などをしたりする。	相手が自ら動きたいと思えるような言葉や表現を用いてプレゼンテーションをしている。	「話すこと・聞くこと」においてアピールしたい点が効果的に伝わるように話を構成を工夫している。 「話すこと・聞くこと」において資料を用いて提案内容を視覚的にもわかりやすくするよう工夫していく。	粘り強く自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫しプレゼンテーションをしようとしている。

		2学年 国語科 2学期 指導計画・評価計画					
実施月	単元	項目・内容・時数	単元目標	評価規準			
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
9	人間のきずな	字のない葉書	5	文章には様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。 観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えることができる。	表現に着目して人柄や心情を読み取り、それを生かして他の随筆を読んでいる。	「読むこと」において、前半部分と後半部分の人柄や心情の描かれ方を比較し、表現の効果について考えている。	進んで表現の効果について考え、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。
		盆土産	7	登場人物の言動や情景を表す語句に着目し、それらが作品に与える印象を述べることができる。 登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈することができる。	登場人物の言動や情景を表す語句に着目し、それらが作品に与える印象を述べている。	「読むこと」において登場人物の言動から人柄や心情を読み取り、それらが話の展開や作品の印象にどうかわかるかを捉えている。	粘り強く登場人物の言動の意味について考え、作品の印象を伝え合おうとしている。
		聞き上手になるう	2	言葉には相手の行動を促す働きがあることに気づくことができる。 論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめることができる。	どのように質問をすると、相手がさらに話したくなるかを考えている。	「話すこと・聞くこと」において、話の要点や全体像を考えながら聞き、話を広げたり深めたりする質問をしている。	粘り強く論理の展開に注意して聞き、思いや考えを引き出す質問をしようとしている。
		敬語	2	敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。	敬語を使う場面生活場面を想定し、敬語の働きについて理解を深めている。		今までの学習を生かして、積極的に敬語の働きについて理解しようとしている。
		漢字2 同じ訓・同じ音をもつ漢字	1	文脈や言葉の意味に注意して、漢字を読んだり、書いたりすることができる。	文脈や言葉の意味に注意して、漢字を読んだり、書いたりしている。		積極的に同音異義語を理解し、漢字を読んだり、書いたりしようとしている。
	モアイは語る	5	文章全体の構成を捉え、意見と根拠の結びつきや論の進め方を吟味することができる。	筆者の意見(主張)がどのような根拠によって支えられているかを理解し、その根拠が適切かを吟味している。	「読むこと」において、文章全体の構成を捉え、意見と根拠の結びつきや論の進め方を吟味している。	粘り強く論理の展開について考えようとしている。	

10	論理を捉えて	表現を工夫して書こう	4	自分の思いや考えが伝わるように、具体例を加えたり、表現の工夫をしたりして、手紙を書くことができる。	相手や目的に応じて、敬語を適切に使って手紙を書いている。	「書くこと」において自分の思いや考えが伝わるように、具体例を加えたり、表現の工夫をしたりして、手紙を書いている。	積極的に自分の考えが伝わる文章になるように工夫し、手紙を書こうとしている。
		漢字に親しもう4	1	文や文章の中で漢字を読んだり書いたりすることができる。	文や文章の中で漢字を読んだり書いたりしている。		積極的に文や文章の中で漢字を読んだり書いたりしようとしている。
		異なる立場から考える	3	たがいの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。		「話すこと・聞くこと」において、たがいの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。	進んで意見と根拠の関係について理解し、異なる立場の意見を想定しようとしている。
		音読を楽しもう 月夜の浜辺	3	詩の構成や表現の効果について考えることができる。	詩の中の語句に着目し、詩全体の世界を豊かに想像している。	「読むこと」において、詩の中の反復表現、対句表現、反語表現に着目し、その効果を考えている。	進んで表現の効果について考え、詩を朗読しようとしている。
11	古の心を訪ねる	音読を楽しもう 平家物語	2	作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。	漢語を交えた独特の調子とリズムを捉えて暗唱している。		進んで古典に表れたものの見方や考え方を知り、暗唱しようとしている。
		扇の的―「平家物語」から	5	古典の文章独特の調子やリズムを意識して朗読することができる。登場人物の反応に着目し、古人のものの見方や考え方を捉えている。	古典の文章独特の調子やリズムを意識して朗読している。	「読むこと」において、「扇の的」での与一の言動や「弓流し」の場面での義経の言動の意味について考え、作品を読み深めている。	進んで古典独特の調子やリズムを意識しながら朗読しようとしている。
		仁和寺にある法師―「徒然草」から	4	現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を理解することができる。文章の構成を工夫して、古典の登場人物について論じつ文章を書くことができる。	現代語訳や語注を手掛かりにして、奉仕の言動やそれに対する作者のものの見方や考え方を理解している。	「書くこと」において、文章の構成を工夫して、古典の登場人物について論じる文章を書いている。	積極的に考えたことを知識や経験と結び付け、登場人物について論じる文章を書こうとしている。
		漢詩の風景	4	観点を明確にして漢詩を比較するなどし、漢詩の構成や表現の効果について考えることができる。	漢文特有の言葉遣いや調子を意識して朗読している。	「読むこと」において、好きな監視を選び、気に入った表現や句を引用しながら、構成や表現の効果を伝え合っている。	進んで作品の特徴を生かして朗読し、好きな監視を選び、その理由を述べようとしている。
12	価値を語る	君は「最後の晩餐」を知っているか 「最後の晩餐」の新しさ	6	観点を明確にして文章を比較し、文章の構成や論理の展開について考えることができる。	筆者がどのような例示(具体)を基に「最後の晩餐」を「カッコいい」(抽象)と述べているのかを理解している。	「読むこと」において、二つの文章に書かれていることを比較したり、関連付けたりしながらそれぞれの文章が書かれた目的や意図を考えている。	粘り強く観点を明確にして文章を比較しながら考えたことを文章にしている。
		書き初め	10	漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解し、読みやすく速く書くことができる。	点画の丸みや連続といった行書の特徴に調和する仮名の書き方を理解し、書いている。		粘り強く漢字の行書とそれに調和した仮名を書こうとしている。

2学年 国語科 3学期 指導計画・評価計画

実施月	単元	項目・内容・時数	単元目標	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	表現を見つめる	書写	10	目的や必要に応じて楷書または行書を選んで書くことができる。	自分が好きな言葉にふさわしい書体を選び書いている。	進んで自分が好きな言葉にふさわしい書体を選び、主体的に楷書または行書で書こうとしている。
		走れメロス	8	登場人物の言動の意味について考え、内容を解釈することができる。根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたりするなどして、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。	作品中の漢語を和語に置き換えると印象がどのように変わるかを考えている。	「読むこと」において、「メロス」や「王」の言動に着目して、人物の考え方や心情の変化を読み取っている。「書くこと」において、登場人物の人物像や表現の仕方など、観点を明確にして作品の魅力を文章にまとめている。
2	表現を見つめる	漢字に親しもう6	1	文や文章の中で漢字を読んだり書いたりすることができる。	文や文章の中で漢字を読んだり書いたりしている。	積極的に文や文章の中で漢字を読んだり書いたりしようとしている。
		文法への扉3	2	助詞や助動詞の働きについて理解する。	助詞・助動詞の働きや種類について理解し、文や文章で使われている助詞や助動詞の意味・用法判別している。	積極的に助詞や助動詞の働きについて理解しようとしている。
		話し言葉と書き言葉	2	話し言葉と書き言葉の特徴について理解することができる。	話し言葉と書き言葉についてそれぞれの特徴を理解し、表現する際にどのような注意が必要かを考えている。	積極的に話し言葉と書き言葉の特徴について理解しようとしている。
3	表現を見つめる	構成や展開を工夫して書こう	4	伝えたいことがわかりやすく伝わるように、文章の構成や展開を工夫することができる。		「書くこと」において起承転結の流れで構成を考え、場面の展開が明確になるように、それぞれの場面での出来事や心情を整理している。「書くこと」において、書いた物語を友だちと読み合い、良い点や改善点を伝え合っている。
		木	3	詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	「愛」「正義」などの抽象的な概念を表す言葉に着目し、詩の中での意味を考えている。	「読むこと」において、自分の知識や経験と結び付けて作者のものの見方について考えている。